

熊本大学における生成 AI の取扱い指針（教職員向け）

令和 5 年 9 月 28 日 教育研究評議会決定

1) 利活用可否の検討、利活用が想定される場面例

ChatGPT をはじめとする生成 AI は、文章のみならず、動画を含めた画像や音声・音楽、コンピュータプログラムを生成することができるものもあり、業務の効率化など教学面以外での利用も想定されています。生成 AI は、今後急速な発展が見込まれ、日常生活に入りこむ可能性があります。

教員の皆さまにおかれましては、授業やゼミなど大学での学修に学生が生成 AI を利用することの可否や利用方法について、2)の「留意すべき観点」をご確認の上、適切な対応をとってください。また、職員の皆さまにおかれましては、特に 2)-3「機密情報やプライバシーなど個人情報の流出・漏洩等の可能性とその防止策」及び 2)-4「著作権に関する留意点」を踏まえ、適切な利用に努めてください。

2) 留意すべき観点

2-1) 生成 AI と学修活動との関係性、成績評価

ChatGPT などの生成 AI が出力する文章の質が高くなり、人間が書いた文章とほぼ見分けが付かなくなっています。

「～について 1000 字程度で書きなさい」のようなレポート課題を、学修の成果物として提出することを課しても、本人の創作によるものかどうか、文章だけから正確に判断することは困難です。生成 AI で作った文章かどうかを判定するツールもあるようですが、誤判定の率も高いようですので判定結果を過信することは危険です。

今後、生成 AI を適切に活用できるスキルが求められる社会になっていくことは確実だと思われまます。大学における学修成果の評価についても、そういう未来を意識した方法に変えていく必要があります。

レポート作成などにおいて、文献やネット上の情報を引用する際には出典元を明記するように指導してきたのと同様に、生成 AI の出力結果を利用する際には、どの生成 AI を用いたか、レポートのどの箇所に用いたかを明記するように指導することが重要です。

また、生成 AI の出力結果を学生が鵜呑みにせず確認し、内容を理解した上で用いているかどうかを評価するためにも、例えば、Moodle 上の小テスト（時間制限と回数制限を課すと不正解答をある程度阻止できる）を活用した理解度確認や、レポートの内容を口頭で試問することを併用するなどの工夫が求められます。

これらの工夫を行うことによって、教員の指導や評価にかかる負担が増える可能性が

ありますが、見方を変えれば、アクティブラーニングや反転授業などの、学生の主体的な学びを促進する工夫を行う機会と捉えることもできます。

2-2) 生成 AI の技術的境界（生成物の内容に虚偽が含まれている可能性）

教員の側も、資料やテストなどの準備において生成 AI の助けを得て、より効果の高い授業とすることができます。ChatGPT などに、例えば、

「ケンブリッジ・アナリティカ問題（CA 問題）についての 5 択問題を 3 問作成してください。選挙介入、SNS データ、プライバシーリテラシーというキーワードを含めた設問にしてください。正解も示してください。」

などと、自身の授業内容に関係することを指示してみてください。瞬時に問題が生成され、「もう一度生成する」のボタンを押すと、別の問題が生成されます。このようにして、授業で身につけてほしい内容についての小テストの類題を多く準備でき、事前事後の学修を促進する手段とすることができます。

ただし、ChatGPT などの大規模言語モデルを活用した生成 AI は、「かなりの確率で間違い、嘘をつく」ということも十分に理解しておく必要があります。動作原理としては、ある語句の次に用いられる可能性が確率的に最も高い語句を出力することで、文章を作成していくものであり、生成された内容に虚偽が含まれていたり、社会的には好ましくないとされるバイアスがかかった内容になっている可能性が少なくありません。生成された結果を実際の授業などに用いる際には、間違いや不適切な表現がないか、十分に確認し手直しする必要があります。

2-3) 機密情報やプライバシーなど個人情報の流出・漏洩等の可能性とその防止策

ChatGPT 等の生成 AI でデータを生成する場合、個人情報や機密情報の入力については、極めて慎重な対応が必要です。情報漏えいの対策としてオプトアウト(学習機能の無効化)を利用することを強くお勧めします。生成 AI は、入力されたデータを使って学習しますので、生成 AI 経由で個人情報や機密情報などが漏えいする危険性があります。従って、生成 AI を提供する OpenAI 社のオプトアウト申請用フォームを使いオプトアウトを実施しておくことが望ましいです。

Data usage for consumer services FAQ:

<https://help.openai.com/en/articles/7039943-data-usage-for-consumer-services-faq>



User Content Opt Out Request:

<https://docs.google.com/forms/d/1t2y-arKhcjlKc1I5ohl9Gb16t6Sq-iaYbVFEbLFFjaI/edit?ts=63cec7c0>



2-4) 著作権に関する留意点

ChatGPT 等の生成 AI が作成したデータには、他者が作成した文章、画像、音楽、映像などの著作物が含まれている可能性があります。生成したデータを公開する前に、それらの著作物の利用条件などを必ず確認しなければなりません。利用条件に合致しない場合や利用条件そのものが見つからない場合は、問題の著作物を削除するなど適切な対応をとらなければなりません。常に個人情報保護と情報セキュリティを最優先に考え、責任を持って生成 AI を利用することが求められます。

なお、生成 AI は今後も急速な進歩を遂げると想定されており、本指針も随時見直しを行う可能性があります。